



ふるさとの丘から国分寺崖線方面を眺める。貴重な緑の連なり。公園協会のホームページによると2009.6時点の広さはおよそ26万2千平方メートルとなっており似た様な名前の武蔵野公園より既に広い。飛行機の離着陸も見える抜群のランドスケープだが、生物多様性に貢献する雑木林やサンクチュアリなどがあつたら、もっとすばらしい場所になるのではないだろうか？

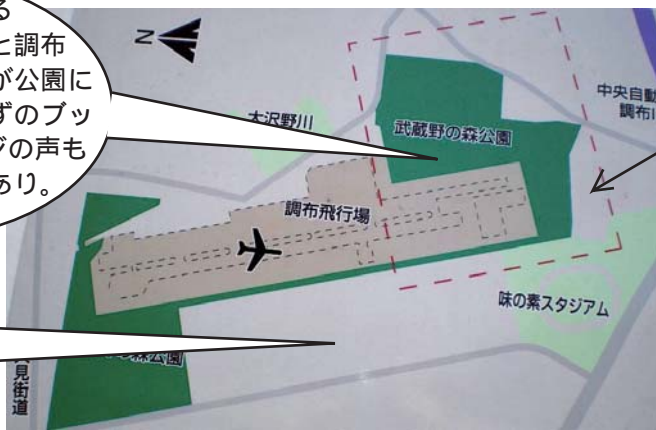
8年ほど前にちょうふ飛行場北側にある公園として開園した「武蔵野の森公園」。以前は東京都の苗圃（びょうほ：公園や街路樹などに使う樹の畑）もあった所。苗圃と言つても手入れが行き届かず、当時、掩体壕はひっそりと草木の陰に隠れていた。開園してから一度も足を踏み入れたことが無かつたので懐かしい気持ちで訪れてみた。

拡張が進む 都立武蔵野の森公園



金網で囲われ、手前は工事車両の置き場となつているが奥は立ち入り禁止のジャングル状態。鳥達の隠れ家として絶好の場所だが、ここもスポーツ施設となつてしまふのだろうか？

整備が進んでいる味スタ東側。三鷹市と調布市のグラウンドの周りになっているが、手付かずのブッシュが残っており、キジの声も聞こえるとの情報あり。



暫定スポーツ施設用地。土日は子供達でにぎやかだが、普段は広さが目立つだけ。



何本か並んだポプラの綿毛で真っ白になった石畳。(5/21)



ブッシュ内でみつけたヘビイチゴ。こんなに大きいものは初めて見た。



整備中の公園内で放置されたスペースにはヘラオオバコ・ムラサキツメクサなどが一杯。工事車両が入つた場所はあつという間にこういった帰化植物が入り込む。

花の履歴書

戸部英貞(絵・文)

オオマツヨイグサ
(大待宵草)
Oenothera erythrosepala
アカバナ科



月見草の名で呼ばれる花には幾つかあるが、その殆どは南北アメリカを原産とするもので、月見草の名が最初に使われたのは江戸時代の終わりの頃、オランダ船が運んできた北米原産の白い花を咲かせるものを、本草家の飯沼慾齋が月の出る頃に咲くことから名付けたのが始まりだ。

しかしこの花は日本の風土に馴染めなかったのか、野生化はしなかった。今日でも栽培されているが、夕刻に花を開き、早朝には萎れてしまうはかない命の持ち主は、幻の月見草として紹介されるほど稀なものになっている。

それに比べ、同じ頃(1850)に入ってきたマツヨイグサは南米からの帰化植物で、大正から昭和の初期にかけて各地の河原や海岸を埋め尽くすように繁殖した。竹下夢二が銚子の海岸で「待てど暮らせど来ぬ人を」と歌った宵待草はこの花である。

これほど繁茂したマツヨイグサも昭和に入ると、後から(明治初期)鑑賞

用に導入され、その後逸出野化した北米産のオオマツヨイグサにその場を奪われ、だんだんと河原から姿を消してしまった。マツヨイグサよりも花が大きく、背丈も高いオオマツヨイグサは太宰治が「富士には月見草がよく似合う」とほめ讃えていたが、これも戦後急に増えはじめたアレチマツヨイグサに追われ、御坂峠から姿を消し、歌碑だけが往時をしのぶように峠の木立の中に立っている。

現在は市のグラウンドとなっている旧多摩川河川敷でも同じで、子供の頃は多摩川で遊んだ帰りにマツヨイグサやオオマツヨイグサを摘んで帰った記憶があるが、その頃が入れ替わりの時期だったのかも知れない。現在自生するアレチマツヨイグサやコマツヨイグサ、ユウゲシユウと入れ替わるのはどんな植物だろう。

ちょうふあちこち
グリーンギャラリー



環境市民の皆さんにはお馴染みの場所だと思えますが、もしグリーンギャラリーを訪れたことが無い方がいたら是非訪ねてみて下さい。とにかく無料で入れるところが嬉しい。

植物公園のバックヤードですが日本庭園あり、市民有志の花壇あり、そして雑木林としてのエリアもあります。手入れの行き届かない花壇にはジュズスゲなどの野草がはびこり、それを観察するのも楽しい。中央の小さい池では六月二日現在、カルガモが抱卵の最中。いつ赤ちゃんガモが見られるかわくわくです。



調布の森を訪ねて

小林 冬樹

へび山と凸凹山の森

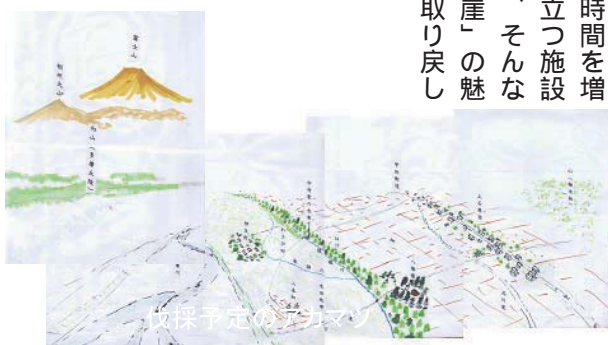
この楽しい名前の「森」はともに布田崖線にある。凸凹山は上石原3丁目、道を隔てた若宮神社向かいにある。市有地であるがフェンスに囲まれ普段は入れない。へび山は、布田六丁目の南の端で、遺跡公園にする計画があり、フェンスで囲まれているが、敷地の中にある郷土博物館分室の通用門が開いていけば入れる。

二つの森が位置する布田崖線の多くは、道路の下で均され、崖線存在を印象づけた湧水や森も多くが失われ、忘れられた場所になっている。しかし、この崖地は地域の歴史にとって重要な場所、古代から中世かけての遺跡が大量に見られている。また明治以降、

風光明媚なこの崖線上に、有力者がいち早く館や別荘を建てた。へび山や凸凹山近辺にはまだそれらの館が残る。また昭和40年代ごろまでは生活にも身近な場所で、特に子供たちにとってはもっとも魅力的な遊び場だった。

かつて大きな意味や魅力をもつ場所であった崖地は、水道、高層ビル、車などにより意味を失い、それにともない人々は崖の形や環境をかえた。凸凹山では、崖前の田んぼは埋められ、せせらぎは排水路として掘込まれた。

私は、今一度、崖線の意味を再発見するには、この間に壊したりなにかを付け加えて本来の姿が見えなかつた崖線の環境から、不用なものを取り除き、壊した環境をもとの姿に戻すことから始める必要があるように感じる。施設を加えるのを極力小さくして、人々が本来の崖の環境にふれあう時間を増やすのに役立つ施設のみ加える、そんなやり方で「崖」の魅力や意味を取り戻したい。



◆入間・樹林の会

4/18(日) 参加者9人名



方形枠調査とごみ拾いをしました。大風の影響でさらに一本、杉が折れていました。3月に続いたの倒木なので、あらためて伐採木の検討等が必要です。

マテバシイ広場は空が見えるようになってきたものの、新しく入った人は「整備されていない」「きれいではない」の感想をもつので、伐採枝の片付けも計画的にしていくなが必要だと話しあいました。この時期にしては花が少ないので、2年後の成果を目指して、落ち葉かきの提案がされました。タチツボスミレ、セリバヒエンソウ、ツボスミレ、ニオイスマレ、ムラサキケマン、ウラシマソウ、ヤブニンジン、シャガ、ジュウニヒトエ、ツバキ、アオキ、ヤマブキが咲いています。

5/16日(日) 参加者6名

雑木林塾卒業生の新たな参加者が加わり、マテバシイ広場の整備等を行いました。玉切りされた杉を通路に並べ、通路から1m幅の小草を残すことで人や犬が立ち入らない整備をしました。下草は通路脇にヤブタバコが多く、斜面地のアズマネザサやビナンカズラについては、土留めにもなるので今後の検討が必要です。

倒れた杉は、緑と公園課が処理をしてくれていました。花はハルジオン、セリバヒエンソウ、エゴノキ。鳥は、メジロ、シジュウカラ、エナガ、ヒヨドリが聞こえました。(安部)

◆若葉の森の会

4/11(日) 参加者13名

今年度の年間計画案などの事務報告、樹木に付ける名札づくり、シュロの根ほりなどをします。

今までの活動との対比が分かるように、未保全区画にロープを張りました。ロープの向こうにはシュロ、アオキ、蔓等がはびこり、昼でも暗かった以前の様子が見られます。

市民活動の記録コーナー

第2落ち葉溜杭作り及び、場所を決めました。

5/9(日) 参加者12名

4月に決めた年間計画等の配布と確認をしました。

そして、自己紹介と会員の方のテープでラジオ体操をしました。3班に分かれて上部の草刈り、下部広場の切り株の片付け、名札作り及び括りつけの作業をする。



若葉町の産線内にて春に咲く花の観察をしました。今年はハルジオン、ヒメジョオンがげんきです。十二単、ドクダミ

等上部の日当たりの良いところには花が元気に咲いていました。

緑地内も若葉の緑が心地よい季節になりました。緑地内に放置自転車があり市の緑と公園課に報告しました。人が多くなると荒れていくのは仕方ない事なのでしょうか?(S)

◆カニ山の会

4/10(土) 晴れ 参加者8名

雑木林塾卒業生の一人が新たに参加。例年の植生調査を行い約75種の植物を観察したが、花の数が減少していた。対策の一つとして落ち葉かきを来年一月に行うことにした。

先月に引き続き

き南面のシュロを2本伐採。伐倒したシュロは2m程度に玉切り、片付け。「切らないで」との声が聞こえたため、近隣に趣旨を明記したチラシを配布したい。

エゴノキが強風で倒れかけていたため伐倒。口は2m程度に玉切り、片付け。「切らないで」との声が聞こえたため、近隣に趣旨を明記したチラシを配布したい。

5/8(土) 晴れ 参加者5名

この日は環境モニターの活動日と重なり、参加者が少なかった。

今後の整備計画策定のために林内の現状について下記のような話し合いを交わした。

- ・上段部は、高木層が発達しており、もう少しギャップを開ける必要有り。
- ・中段部の三角地は、過度な下刈り状態であり、暫く放置する。
- ・下段の南側は高木の伐採、枝切りが行われたため、林内は明るくなったが乾燥

防止のため暫くは注意が必要。実生で生育した木が目立ってきており、整備をしていく。

その後、先月倒れていたエゴノキを通路の端部保護に利用し、はびこりすぎたヘデラは引き抜きをした。

作業後の話し合いでキャンプ場北側広場の整備もしてみたいという意見や行政と簡単な協定をむすんだら良いのではないかという意見が出された。(活動報告より)

◆環境モニター

5/8(土)

今年度第一回の環境モニターは佐須ふれあいの家で始まりました。新参加の方もいますので、先輩メンバーからこれまでの活動についての紹介、そして戸部先生から調布の自然環境や「里山」と呼ばれる雑木林などについてのお話を聞きました。その後、佐須用水に沿ってカニ山へ向かう途中にはオランダカラシ・キツネアザミ・オオジシバリ・タチイヌノフグリなど道端の植物が続きます。

ここ数年、春最初の植物調べで七草の一つホトケノザ(コオニタビラコ)の黄色い小さな花を確認する水田では、既に花期が終わっていてチョット残念。カニ山の広場へ来るのが初めてという新メンバーもいて、樹木に囲まれた静かな空間に感激の様子。ちょうど白い花を沢山つけたサワフタギ、足元にカラスビシャク、キイチゴの赤い実など思いがけない収穫のあった植物調べでした。(森)

ちょうふの自然みつけた!

環境市民会議メンバーのメリーングリストより

5月2日「田んぼの学校」の苗床への水路の中で見つめました。

(何かの貝?) 一見すると「かたつむり」のようですが、水中にいました。(T.E)

これは、ウスカワマイマイ(有肺類)の一種です。



本来は陸産で、水際や畑地等の草上や地上に生息している種ですが、たまたま水中に落下した物と思われず。もちろん水中では呼吸ができないため死んでしまいます。(K.I)

5月3日 国領神社の通称、千年藤。連休中が見ごろだそうです。

私もこれから出掛けてみます。(M.E)

5月30日 国分寺崖線(入間町一丁目または二丁目)のほうから、ホトトギスの鳴き声が聞こえてきました。まだうまく鳴けていませんでしたが。(T.A)

カブトムシ・クワガタ・オニヤンマ アゲハチョウをみつけよう!

第3回 調布生き物環境調査 ~探そう! 調布の虫・植物~

7/17(土) 9:30 ~ 12:00

深大寺自然広場 駐輪場に集合!

環境指標生物リストに照らして、調布の環境をしらべます。小雨決行(荒天中止)

講師: 石川和宏さん、宮治隆博さん

調査場所: 深大寺自然広場周辺

参加費: 保険料 1人 100円

申込み〆切: 7/9(定員: 親子で40人)

申込み: 調布生き物調査実行委員会(川口)

TEL 042-483-4881 FAX 042-485-3447

協力: 身近な川を見守る会

水辺の楽校

How あ~ゆ~ in 多摩川

4月29日「緑の日」に多摩川二ヶ領上河原堰横の広場でH22年度調布水辺の楽校の開校式を児童58名+関係者の89名の参加で行いました。

夜来の雨は上がり晴れ間も見え始めましたが、あいにくの強い風に加えイベントを目前にして川がみるみる増水、子供達が楽しみにしていた川に入つてのアユつかみは危険防止のためやむなく取りやめ。代わり事前にサポーターのお父さん達が川で採取した魚やエビなどをミニ水族館(水槽)に入れ、展示。漁協や講師の方から川に入る心得などのレクチャーも受けました。その後各班に別れ「河原の春探し」のため植物を調べましたが、子供たちは水に入りたくて気もそぞろのようでした。

午後はミニ水族館に入れた川の生き物たちに触れながらの解説が行われました。たった一匹獲れたアユと川の生き物たちをリレー形式で放流することになり、川に入つての作業が行われましたが、このとき子供たちが生き生きとした姿を見せてくれたのはホントウに良かった。来年こそは、と祈りつつ...(里)

当日確認された生き物たち

- アユ・シマドジョウ
- ・スジエビ・テナガエビ など13種
- 163匹
- 河原の植物
- 草本26種
- (約7割は外来種)
- 木本2種



環境市民エコ活動スケジュール

若葉の森の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接若葉町3丁目第3緑地へ。

- 6/13(日) 9:30 ~ 12:00 / 下草刈り、清掃、第2落ち葉溜め作り
 - 7/11(日) 9:30 ~ 12:00 / アズマネザサ等の下草刈りなど
- 問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。

参加希望者は直接野草園横へ。

- 6/12(土) 10:00 ~ 12:00
 - 7/10(土) 10:00 ~ 12:00
- 問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへおいで下さい。

- 6/20(日) 9:30 ~ 12:00 / 方形枠調査と下草刈り
 - 7/18(日) 9:30 ~ 12:00
- 問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

野川とハケの森の会

● 7/3(土) 13:30 ~ 16:30 / 上映会と巣箱の手入れ
場所: せたがやトラスト・ビジターセンターのシアタールーム
問合せ: 070-5566-3437 大山

【編集後記】 行政は公開していると言うけれど、何故か気づかないうちに開発が進む。スポーツ公園もいよいよ、もう少し自然を残せないものだろうか。(Nao.K)
協働とは計画立案の時から始めるべし。地元の「環境市民」に相談してほしい。(江刺)

市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は2009.3.15に設立された「ちょうふ環境市民会議」が隔月で編集発行、身近な自然情報を発信しています。自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。編集人も募集中!

現在、調布市環境部、市内各図書館、地域福祉センター、郷土博物館、実篤記念館、あくろす2・3F、たづくりみんなの広場、曼珠苑さん、みさと屋さん、などに置いてあります。

発行: ちょうふ環境市民会議

連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org